

多文化共生サービスをテーマとすることにあたって

- ・家族を伴って一緒に来日する児童は多い。市からの多言語でのチラシをお渡ししているが、どこまで読んでいただいているのか、知らない国の文化に不安を抱えているのではないかと思う。
- ・絵本は視覚的なので、絵本の絵というのは絵本の絵というものは国境がない。視覚的にぱっと興味を引く仕掛けづくりが必要ですが重要ではないか。
- ・図書館の役割として情報発信を大切にしたいと考えておられる。職場でいろんな国の子どもが通っている。中国語と日本語で出版されている絵本を交互にはなす絵本の読み聞かせを開催。子どもたちが素直に中国語を受け止めている姿がみられた。
- ・多文化共生サービスは大事。外国人に向けてだけでなく、わかりやすい告知、きっかけづくりが大事。おはなし会を通じて親たちの交流時間も設けられて交流の場になるのではないか。
- ・外国人が増えていく中での図書館の役割を考える必要がある。
- ・外国人向けサービスは、これ以上拡充できるかというぐらい取り組んでいる。知恵を絞ってどうしたものが必要かを議論する必要がある。
- ・2001年の報告書からも「多文化共生は、概ね日本人の問題」というところもある。
- ・外国人を受け入れていかざるえないなか日本社会にとって、外国人サービスが、図書館サービスのなかの特別なものでなくなっていくのではないか。
- ・マイノリティ側にいる当事者に図書館でどういうサービスが必要かを調査する必要がある。
- ・「多文化サービス」について話し合っているが図書館界では実質的にその内容は「多言語サービス」となっている。
- ・来館者アンケートは自らを対象ではないサービスだから自分には関係がなから満足していないと答えているということも想定される。
- ・マジョリティ側から自分には関係ないサービスだけれど、社会的に重要だからやるのでは、もう一歩足りない、図書館が(多文化サービスを)をやるにはマジョリティ側から見ても自分たちにも関係があるというようにとたえられる打ち出し方ができないか。
- ・マイノリティ側との協働はいろいろな形があり、諸外国での事例もある豊中の土地柄に即したやり方をできればよいのでは。
- ・多文化共生サービスについて、概ねマイノリティとマジョリティというところで、マジョリティ住民を巻き込むことも視野に入れた多文化共生サービスのあり方を考える。

豊中市の多文化サービスの取組み(資料 2~6)から

- ・まず、これまで取り組んでいた「多文化サービス」をしってもらうことが大事である。
- ・前回の障害者サービスの議論でもそうだが、当事者がいないなかでサービスをきめていくことがやはりいびつであると感じ、協議会の議論をすすめることが大切
- ・増加している外国人の豊中市内の人口の年齢別の内訳が必要である。
- ・海外マイノリティ調査。フランスとブラジル
- ・図書館が全部引き受けて行う必要はない。
- ・当事者性ぬきには考えられないが何のサービスを必要としているのか、すり合わせていかないと図書館を利用することに結びつかない。

参考:豊中市における多文化共生に関する調査

市(調査):豊中市における多文化共生の地域づくりに向けた調査研究/とよなか都市創造研究所	令和3年(2021年)3月	外国人人口が増加する中で、外国人と日本人の地域における共生に向け今後どのような取組みが求められるのかを検討することも目的に実施。日本人市民の多文化共生意識、外国人市民の地域活動への参加プロセスなどインタビューを交えての調査。	
市(調査):コロナ禍における外国人市民生活等への影響に関する調査報告書/豊中市・公益財団法人豊中国際交流協	令和4年(2022年)1月	コロナ禍における外国人市民の生活等への影響や課題を把握し、今後の外国人支援や多文化共生のための地域づくりをさらに推進することを目的に実施され、日本語能力、生活費、仕事の変化、子育て不安、負担について調査をしている。	
市(調査):豊中市多文化共生に関するアンケート調査報告書/豊中市人権政策課	令和5年(2023年)3月	18歳以上の外国人市民2,000人及び日本人市民1,000人が対象。豊中市に住む日本人市民の外国人市民とのかかわり、多文化共生についての関心を把握し、「多文化共生のまちづくり」を推進する上での基礎資料とする。	